

サンルダム建設事業の検証に係る検討

報告書 補足資料

平成 24 年 10 月

国土交通省北海道開発局

目 次

1. 天塩川の流域及び河川の概要	1
① 現行の治水計画	1
② 人口	2

1. 天塩川の流域及び河川の概要

① 現行の治水計画

①-1. 天塩川水系河川整備基本方針の概要(平成15年2月4日策定)

(1) 基本高水並びにその河道及び流域内の洪水調節施設への配分に関する事項

天塩川の基本高水は、昭和48年8月、昭和50年8月、昭和56年8月等の既往洪水について検討した結果、基準地点名寄大橋においてそのピーク流量を3,300m³/sとし、このうち流域内の洪水調節施設により500m³/sを調節することとして、河道への配分流量を2,800m³/sとする。基準地点誉平においてはそのピーク流量を6,400m³/sとし、このうち流域内の洪水調節施設により700m³/sを調節することとし、河道への配分流量を5,700m³/sとする。

名寄川の基本高水は、昭和48年8月、昭和50年8月、昭和56年8月等の既往洪水について検討した結果、基準地点真勲別においてそのピーク流量を1,800m³/sとし、このうち流域内の洪水調節施設により400m³/sを調節することとし、河道への配分流量を1,400m³/sとする。

表 1-1 基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
天塩川	名寄大橋	3,300m ³ /s	500m ³ /s	2,800m ³ /s
	誉平	6,400m ³ /s	700m ³ /s	5,700m ³ /s
名寄川	真勲別	1,800m ³ /s	400m ³ /s	1,400m ³ /s

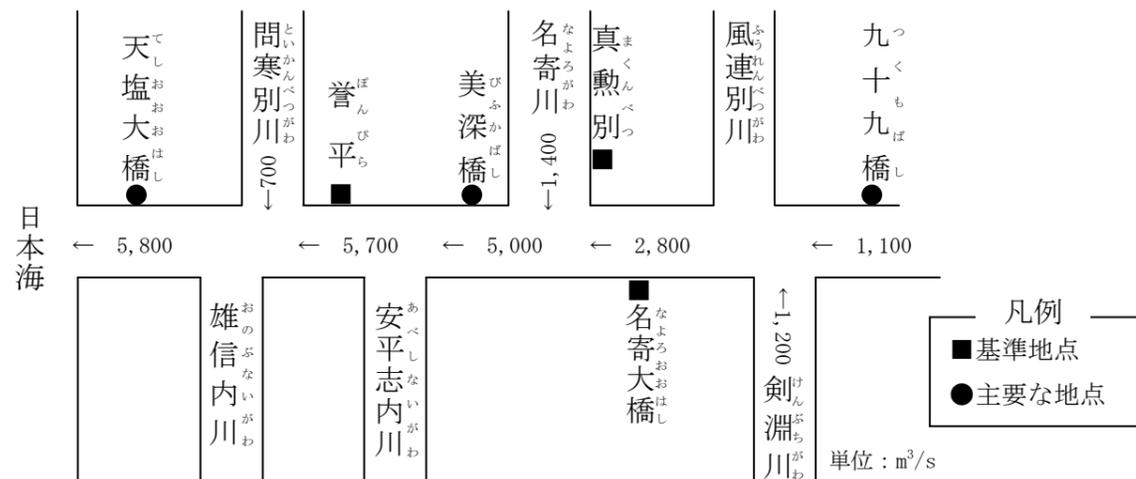


図 1-1 天塩川計画高水流量配分図(天塩川水系河川整備基本方針)

①-2. 天塩川水系河川整備計画の概要(平成19年10月12日策定)

(1) 対象期間

河川整備計画の対象期間は概ね30年とする。

(2) 洪水等による被害の発生防止または軽減に関する目標

洪水による災害の発生防止及び軽減に関しては、河川整備基本方針で定めた目標に向けた段階的整備を総合的に勘案し、戦後最大規模の洪水流量により想定される被害の軽減を図ることを目標とし、河川整備計画の目標流量を表1-2に示すように基準地点の誉平において4,400m³/sとし、このうち、既設の岩尾内ダム及びサンルダムにより500m³/sを調節して河道への配分流量を3,900m³/sとする。

同様に名寄大橋地点では、目標流量を2,000m³/sとし、岩尾内ダムにより200m³/sを調節して河道への配分流量を1,800m³/sとする。また名寄川の真勲別地点では目標流量を1,500m³/sとし、サンルダムにより300m³/sを調節して河道への配分流量を1,200m³/sとする。

河道断面が不足している区間については、河川環境に配慮しながら必要な河道断面を確保して洪水被害の軽減を図る。

河道断面の確保にあたっては、本支川及び上下流のバランスを考慮し、水系として一貫した整備を行う。また、局所的な深掘れや河岸侵食により、災害発生のおそれがある箇所については、河道の安定化を図る。

一方、内水被害が想定される地域では、内水被害の軽減を図る。

さらに、計画規模を上回る洪水や整備途上段階に施設能力以上の洪水が発生した場合でも被害をできるだけ軽減するよう必要な対策を講じる。

表 1-2 河川整備計画の目標流量

河川名	基準地点名	目標流量	河道への配分流量
天塩川	名寄大橋	2,000 m ³ /s	1,800 m ³ /s
	誉平	4,400 m ³ /s	3,900 m ³ /s
名寄川	真勲別	1,500 m ³ /s	1,200 m ³ /s

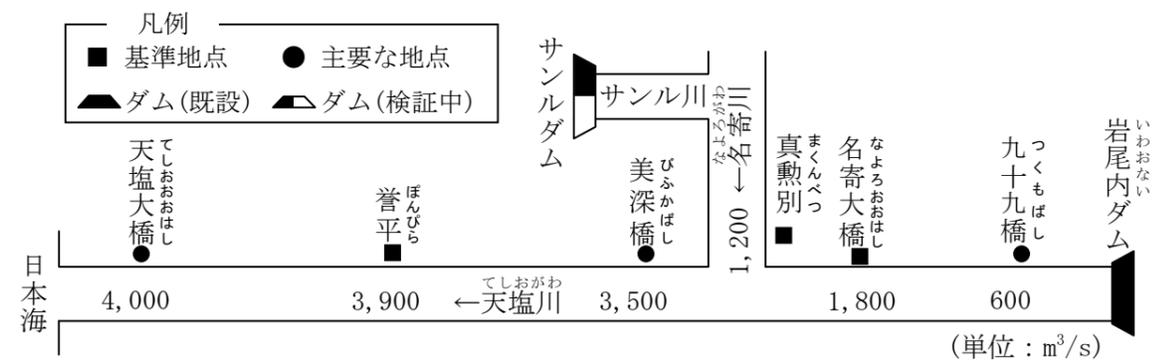
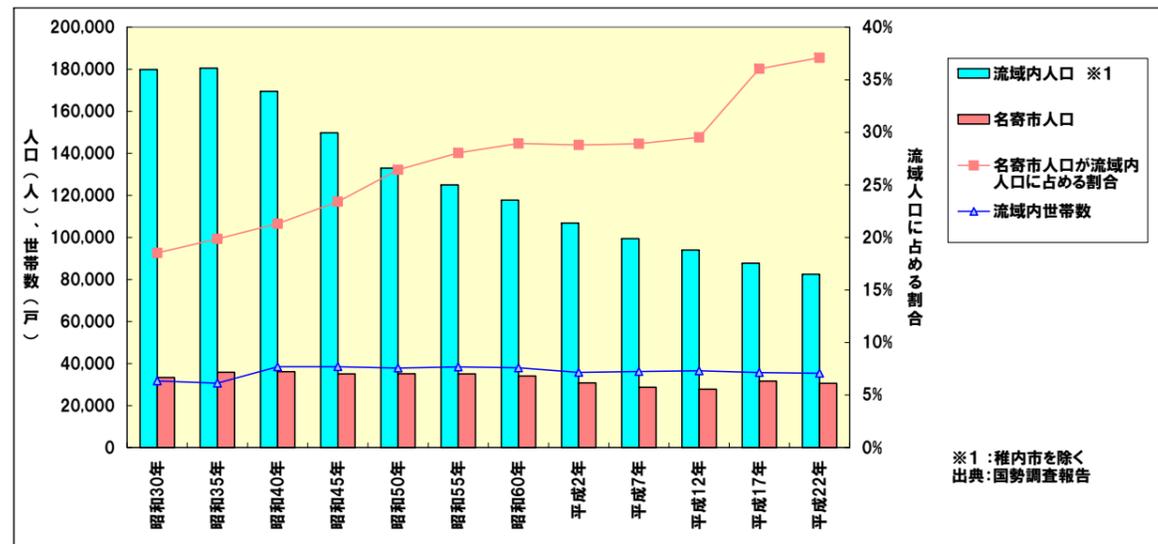


図 1-2 基準地点及び主要な地点における河道への配分流量

② 人口

天塩川流域は、北海道北部にあって南北に細長い羽状形を呈し、上川・留萌・宗谷地方にまたがる3市8町1村からなり、名寄川は流域の人口の約4割が集中する名寄市で天塩川に合流している。

流域内市町村人口の近年10ヶ年の推移はやや減少傾向にあるが、世帯数はほぼ同水準で推移している。



※朝日町はH17年士別市に、風連町はH18年名寄市に合併
※平成22年国勢調査

図 1-3 天塩川流域の人口・世帯数の推移